

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2571500152
法人名	社会福祉法人 雪野会
事業所名	グループホーム 万葉の里
訪問調査日	平成 19 年 7 月 25 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 23 日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2571500152		
法人名	社会福祉法人 雪野会		
事業所名	グループホーム 万葉の里		
所在地	滋賀県蒲生郡竜王町山の上632番地 (電話)0748-57-2100		
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市中浜432番地 平和堂和邇店2F		
訪問調査日	平成19年7月25日	評価確定日	平成19年8月23日

【情報提供票より】(平成19年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成6年3月25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11人	常勤5人, 非常勤6人, 常勤換算	8.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート平屋建て造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	36,100 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.5 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竜王国民健康保険診療所、東近江市国民健康保険病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

・平成6年に社会福祉法人雪野会が竜王町・蒲生町の高齢者福祉についての思いを背景に介護老人福祉施設を設立した。また、認知症の高齢者に対し、残された力や個性を發揮出来る環境を設定し、専門的なケアを提供することを目的に平成15年にグループホーム万葉の里が併設された。利用者の個別性、生活史を大切にし、一人ひとりの担当者を決めるなどして、職員間で統一した認識を持ち、日常の取り組みに努力している。また、長年農村で生活してきた利用者が庭の一部を耕作地として活用、家族を巻き込んで野菜や花づくりをして、それらを世話することにより暮らしの空間を広げている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・運営理念やグループホームの役割を地域に理解されるように啓発・広報に積極的に取り組むことや地域への施設開放等を求められていたが、今回の調査においてもあまり改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>・管理者、全職員自ら自己点検を行い、職員会議で集約し共通理解を図っている。自己評価は少なくとも年2回実施するという努力目標を立て意欲的に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>・運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。その中で利用者、家族、事業者、の間に距離があり、それをどう縮めるか、また、地域住民の認知症に対する理解を深めるためどう啓発するかが家族会から指摘されており、これらの課題に対する取り組みがあまり進んでいない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>・入所時に苦情受付担当者や窓口を提示し説明している。家族会で改善の提案や苦情があればその是正のための方法も検討し、家族会で合意し、それらを推進会議等で生かしていたが現在会長が不在で活動が停滞中である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>・地域住民との交流はほとんどなく、今後は自治会、老人会、地域の行事など、身近なところから積極的に参加して地域との密接な関係の構築に努めてほしい。またこれを当施設に対する理解を深める機会として捉え、認知症に対する理解や啓発の場を作っていくことを期待する。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域密着の理念が社会福祉法人雪野会にはあるが、グループホームの理念の中には入っていない。	○	・地域密着型サービスの役割を理解しそのことを反映した理念を作り上げることが期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念の共有化と実践化に向けて、朝の打ち合わせ時に全職員で復唱し確認している。		・各職員が日々の実践の見直しをするために記入用紙を作るなどを検討されているが、実施を期待したい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の自治会等に加入していないが、毎年行われる納涼会には参加して地元住民と交流を図っている。地域住民との交流、ボランティア、中学生等の受け入れは特別養護老人ホームが受け入れている。グループホームとして独自に受け入れはしていない。	○	・ホームを地域住民に開放する等出来る事から独自の行動を始め、それらを通して地域住民が当ホームに、また認知症に対して正しい理解を深め、互いに支えあう双方向関係の基盤を築き、交流拡大が進められるよう期待する。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・毎月職員間で、わかりやすいチェック項目に沿って自己点検を行っている。今回も全員参加で自己評価を実施し、共通理解を図りながらまとめあげた。また、管理者が代わり新管理者の下にホームを変えるのだという強い意気込みが自己評価にも感じ取ることが出来た。		・具体的改善に繋げ、更なるサービスの質の向上に努めることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、現状の報告や課題について検討し、地域代表委員からも課題が出されている。利用者、家族、事業者の間にある距離感の問題、認知症に対する地域住民への啓発や地域交流のための具体策等の問題を抱えている。		・ホームとしてどう具体的に提案し解決していくかが問われており、早急な取組みを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・施設長を県より、事務長を竜王町より迎え、市福祉課などにも頻繁に出入りして、行政との連携が密に取られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・利用者の暮らしぶりや健康状態などの家族への連絡・報告は、電話や家族の面会時に適切に行われている。また毎月一回、担当職員より手紙を書き個人の様子などを届けている。	○	・家族とのコミュニケーションが図られている家族はよいがなかなか連絡の取れない家族があり、それらに対して具体的な取り組みの推進を期待したい。また家族会はあるが、会長が不在で活動が停滞している。早急に会長を決め正常な活動に戻すことを望みたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情等に関するホーム側窓口や第三機関窓口を明示し、説明がされている。現在のところ苦情はない。 ・家族会があり、改善の提案や苦情や意見があれば、その是正の方法を検討し、家族会で実践されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の異動等によるダメージ防止のため、急激な変化をきたさないよう異動を最小限に抑える一方、やむを得ない場合には異動の時期をずらすなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職場を離れての研修は全職員に出来るだけ平等に行き渡るように配慮している。この4月より若年認知症研修会、滋賀ネットワークを考える会、平成19年認知症の人のためのケアマネジメント研修などに参加している。認知症と人権問題については、年次計画を立て取り組みを検討中である。		・認知症と人権問題について、全職員に研修を徹底しようとする計画を中心に、OJTを組み込んだ基盤再構築には是非成果を上げていって欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同業者との交流はまだ確立されていないが、行政主導による地域密着型サービス事業者連絡会議(認知症啓発)が開催され、管理者が参加している。同業者との交流によるネットワーク作りを積極的に取り組む必要を感じられ、既に声がけに取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・急激な環境の変化は望ましくないという思いから、ホームへ利用者、家族に前もって来てもらうように促している。加えて利用者の人生暦を十分聴取の上、アセスメント作成に時間をかける方針を徹底されることとなった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は、料理や洗濯、畑仕事など日常生活の中で利用者の出来ることを見つけ出し、支援している。また利用者から苗木の育て方、作り方を教えてもらうなど互いに助け合う信頼関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常の会話、昼食や入浴などリラックスしている時に本人の思いや気持ちを読み取り、ケアプランなどに反映させている。またこのことを通して信頼関係の構築にも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人の生活歴や居宅介護の経過等を聞き取り、本人、家族と相談してケアプランが作成されている家族もあるが、意見等が取り入れられていない家族もあり、早急にその家族に面会し、意見等を聞き取りケアプランに反映させることが望まれる。	○	・利用者は加齢と共に状況変化が起きてくることから、早急に家族等に会い意見等が反映されたケアプランが作られることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・毎日記入される個別の食生活記録表を職員間に回覧、状況変化の情報を共有している。その状況に応じてその都度、介護計画を見直し、担当者にてモニタリングやカンプレンスを行い、状況変化に対応している。毎月の職員会議では利用者一人ひとりの状況等を話し合い、共通理解し、支援に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・併設の特別養護老人ホーム、デイサービス等にも自由に行き来が出来、連携支援の体制ができています。その中で、時々共同で行事、散歩、買い物等を行い、交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・各利用者のかかりつけ医と連携を密にとり、情報交換を図り、健康管理体制は良好である。受診は家族が同行することを原則としているが家族が行けない場合は、職員が同行している。利用者、家族と共に診断結果を共有し、安心できる態勢を作っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・日頃から、管理者、職員や家族会等で、重度化や終末期に向けての突っ込んだ話し合いは行われていない。従って事業所としての基本的な考えは固まっていない。	○	・重度化、終末期のあり方についての基本方針を定めてもらいたい。また、家族、医師、看護師などを交え話し合いを行い、本人、家族の思いに注意を払いながら、本人にとってどうあったら良いか、事業所が対応できる支援方法等を考え、そのことを共有し、各利用者の支援活動に生かすことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・入所時に、利用者・家族の意向等を聞き、利用者が呼んでほしい名前と呼んでいる。また大きな声でゆっくりとした言葉で丁寧に話しかけていた。そこには尊厳を守る姿勢がうかがわれた。また記録等の個人情報の管理状況は良好である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日の利用者の様子、体調を見て、また意見を取り入れながら一日の流れを一緒に作って支援している。また一人ひとりの状況をみて配慮し、食事をきちっと出来ない人や集団生活に馴染めない人には食事支援や居場所作りをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の料理の得意分野などを聞き取り、把握に努め、食事の準備、調理、片付けを一緒に行っている。畑で育てた野菜を料理し、楽しい話題にもなり、季節感・生活感を共有している。食事は職員も同じ物を食し、味付け・硬さ等吟味しながら、楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴については、必ず声をかけ、本人の希望に応じている。ただし入浴時間は午後と決めている。入浴時間帯についての利用者の意向に沿う入浴介助の方法を目下検討中である。		・可能な範囲から入浴時間については個人の意向に合わせた入浴支援体制をとることを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・併設の施設と打ち合わせをして、施設内の行事、敬老の集い、納涼会への参加等をしている。また、所内の畑の苗植えや穫り入れ等の役を決め、責任を全うする喜びや収穫の喜びを体験する支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日には出来るだけ散歩・ドライブに出かけている。近くのコンビニへ買い物に出かけたり、食事のための買い物をスーパー等とするなどの外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は玄関に原則として鍵を掛けないようにしているが、職員の目が届かない時にはかけている。利用者の暮らしの安全を守るために玄関などにセンサーを取り付けるなど見守り支援に努力している。また日々状況を考慮しながら鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・併設の施設と連携し消防署等の協力を得て、合同で避難訓練、経路の確認、救急救命、消火器の講習等を行っている。各室のバリアフリー化、火災センサー設置等はされている。夜間の0時から6時の間は1名体制(職員)である。	○	・災害訓練は昨年度9月に実施、その後はされていない。1名体制(職員)の時間帯もあるので、施設独自で避難訓練を実施し、特に避難経路の確認と利用者同士でお互いに助け合いながら避難する方法などを周知徹底し、いざという時に間に合うようにすることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者を24時間見守り、一日に摂取した水分量、体温、血圧、入浴状況等を健康記録表に記入、特に排便は単独別紙の用紙に記入するなどして、健康管理支援を行っている。また、管理栄養士が献立した献立表に従って提供される食事内容は栄養バランスもよい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・施設の東南側中央に居間・食堂を配置し、利用者の作品が展示されていた。個別空調設備を備え、太陽光が入り明るい。また、南西側に利用者と家族で耕している耕作地があり、花や野菜が植えられ、季節感や生活感が感じられ、和気藹々と過ごしている。		・耕作地で作り、育てる喜びを体験することだけではなく心の治療として大切に育てることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・今までの生活で使ってこられたものや馴染みのあるものの持ち込みを勧めているが、結果的には各部屋はタンス1つ程度置かれているに留まっているので、写真の額や鉢花などの小物を飾って、意心地をよくするよう取り組んでいる。		